

1. 評価結果概要表

作成日 2008年4月14日

【評価実施概要】

事業所番号	0892000019
法人名	株式会社 いっしん
事業所名	グループホーム いっしん館つくば
所在地 (電話番号)	茨城県つくば市上原23 (電話)029-839-5025

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年3月17日	評価確定日	平成20年7月15日

【情報提供票より】(H20年2月14日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 6 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	13 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 14 人

(2)建物概要

建物形態	併設/ 単独	新築 /改築
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,100 円			

(4)利用者の概要

利用者人数	16 名	男性	5 名	女性	11 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低	74 歳	最高	98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	しほう医院
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは旧住宅と新住宅の混在する場所にあり、自然環境にもめぐまれている。地域との関わりを大切に考えて、ホームの理解を深めてもらえるように取り組んでいる。また、連絡協議会等の参加や家族会の開催など利用者が住みよい環境づくりを目指している。利用者はそれぞれの生活を大切にしたい支援を受け、日々生活を送っている。他の関連施設との旅行会等の企画があり、親睦を含めた楽しみごとがあるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	地域に向けて、自治会等の加入に努力してきたが、まだ加入できていない状況にある。介護計画や記録に対しては職員間で話し合ったり、家族に意見をいただいたりと努力された。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	管理者が中心となって作成した。また、職員の意見を参考にしていた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	2ヶ月に1回運営会議を開催し、意見交換することでケアサービスの向上に努めている。改善点や問題などあった場合はその都度話し合いを持ち、改善できるようスタッフミーティングしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	毎月お便りを家族に郵送している。その際利用者個人の状況について報告されている。ご意見箱には意見等は入ることはないが、面会に来所された家族から意見等をもらうこともある。その意見等はスタッフで話し合い解決するようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	散歩する時等に挨拶したりしている。近隣の小学生の来館を受け入れしている。

1. 評価結果概要表

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者がその人らしく暮らしていける理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時には基本マニュアルを基に理解してもらっている。職員は、理念を共感し勤務している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の行事や敬老会等に参加している。しかし、まだ自治会へ加入はされていない。今後の自治会加入については検討中である。		地域の一員となり、地元の人々と交流ができるよう是非自治会に加入し、ホームの今後の発展を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が職員から意見を聞きまとめている。前回の評価は職員全員が閲覧できるよう掲示しており、活用できるように心がけている。	○	次回は職員全体で話し合い、評価の意義を理解していただき、サービスの向上にさらに努めていただきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営会議を行っている。参加者の意見等聞くことによってサービスの向上に努力されている。		

茨城県 グループホームいっしん館つくば

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市町村担当者に運営会議に参加していただき、さまざまな働きかけを行っている。今後も積極的に取り組んでいけるよう考えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	月に1回、家族にお便りを郵送している。その際、利用者の状況など記入して、近況報告されている。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	苦情が出た時には、その都度、納得のいくまで説明している。アンケートや意見箱は設置してあるが現在のところ投函されていない。	○	意見等の記録がないため、全職員に伝達されたかどうか疑問に思われる。利用者が快適に暮らしていけるように、また、家族が安心できるように検討していただきたい。
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	職員の移動は最小限にとどめている。移動があっても利用者のストレスにならないように気配りに努めている。		職員の移動時、家族が心配することがあるため、報告は必要と思われる。安心していただくためにもお便り等、活用できれば良いのではないかなと思われる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	同系列の学習会等、活発に行われている。出席できない職員についてもDVD等など活用し、いつでも見れるようになっている。幅広い分野の講師を招いて、日々学習し努力されている。		外部研修へ参加し、他の施設の方と交流を持つことでケアの向上につなげていけるきっかけになると思われる。外部研修の参加を期待したい。
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	地域密着型サービス連絡会議に参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	2週間の体験利用がある。家族と話し合いながら工夫している。また、近隣の病院等、要請があり、サービスを受けられるように努力されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作りや掃除したりと、生活の中で話をしながら昔の出来事や伝統など教えていただいている。そして暮らしが楽しくなるようなヒントをいただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者から何をしたいのかなど傾聴したり、家族からの要望を聞き、出来る限り思いに添えるよう努めている。		思いや家族の要望等変わることもある。時期を決め再アセスメントしていく必要があると思われる。利用者の意向や思いを把握し、職員が検討できるよう今後も心がけて行ってほしいと考える。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意見を取り入れて、その人らしい生活が出来るよう作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に変化があった際には、職員等で意見交換している。また、家族や関係者と話し合いを設け、計画書の見直しを行っている。	○	話し合った評価記録が書かれていない。日々の記録に計画の評価や追加計画の記録が書かれているとわかりやすいと考える。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の身体状況の応じて、対応できるようになっている。家族や利用者の希望に添えるよう話し合い、支援に心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診の協力体制が整っている。受診や通院は利用者や家族の希望に応じて対応できている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りについては、利用者や家族の意向を聞きながら取り組んで行こうと考えている。看取りの経験はある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに合わせた言葉使いや声かけを心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて日々生活できるよう支援している。季節の行事等取り入れながら希望に添えるよう心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞き、献立に反映できるようにしている。利用者と職員がテーブルを囲み楽しく食事できるよう雰囲気大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴したい日、希望する時間に入浴できるよう支援している。介助が必要な利用者には安全を考えて、風呂釜を移動したりしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が生き生きと役割が発揮できるよう、お皿を拭いてもらったり、洗濯たたみ等をしていただいている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望を聞きながら外出するようにしている。外出を通して季節感を味わっていただくよう心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。夜間は防犯上のため鍵をかけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回の消防訓練を行っている。地震の訓練は今後考えて行きたい。備蓄に関しては、3日分は備えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に合わせて、食事量や水分量など確認している。栄養士のアドバイスを受けたり、体調管理に気を配っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールには家庭的な雰囲気作りに努め、居室入り口には手作りのれんをさげている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで生活し使用していた家具など持込可能になっている。	○	使い慣れた家具の配置等、利用者が安心して過ごせる環境づくりに、家族と話し合っ工夫していただき、居心地よく過ごせるように考えてほしい。